OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	SXview/GWS入門
Author(s)	中島, 重雄
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1995, 95, p. 26-41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66084
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

SXview／GWS 入門

システム管理掛　　中島　重雄
w60153a@center.osaka-u.ac.jp

はじめに

ＳＸｖｉｅｗ／ＧＷＳは、ビジュアルシミュレーションシステムであり、科学技術分野における計算結果を可視化し、解析結果の理解を助けるためのものである。メニュー処理にもとづく対話処理型と、利用者がグラフィックプログラムを作成するためのＦＯＲＴＲＡＮサブルーチンライブラリから構成されている。

ＳＸｖｉｅｗ／ＧＷＳが利用できるのはセンター２階・第２ＴＳＳ室に設置しているグラフィックワークステーション ＩＲＩＳ／Ｏｎｙｘ ホスト名 "cconyx01" である。

ＳＸｖｉｅｗ／ＧＷＳでは、スーパーコンピュータＳＸ－３Ｒとグラフィックワークステーションとのネットワーク環境のもとで動作するクライアントサーバ利用（分散処理が可能）と、グラフィックワークステーション単体利用があるが、ここでは単体利用についての簡単な操作方法について説明をおこなう。詳細については、つぎのマニュアルを参考にしていただきたい。

1. ＳＸｖｉｅｗ／ＧＷＳ・ＩＭＧ　利用の手引き＜ライブラリ編＞ GUY 32-4
2. ＳＸｖｉｅｗ／ＧＷＳ　　利用の手引き＜対話処理編＞　GUY 31-3

１．環境設定

ここでは、ＳＸＶｉｅｗ／ＧＷＳ「以下、ＧＷＳとする」を利用するための環境設定について説明をおこなう。

ＧＷＳを利用するにはカレントディレクトリ上に置いておかなければならない必要なファイルがある。なお、ホームディレクトリ上の環境設定ファイルの変更も必要である。

① 必須ファイル

ＳＸＶＩＥＷ	ＧＷＳ対話処理起動シェル
ＳＸＶＳＹＳ	システム既定値ファイル
ＳＸＶＳＹＳ．ＬＯＡＤ	ファイルローダ・セットアップファイル
ＳＸＶＭＡＩＮ．Ｍ	メインメニュー・セットアップファイル
ＳＸＶＶＳＵＬ．Ｍ	グラフメニュー・セットアップファイル
ＳＸＶＡＮＩＭ．Ｍ	アニメーションメニュー・セットアップファイル
ＳＸＶＩＭＡＧ．Ｍ	画像データ・セットアップファイル
ＳＸＶＣＬＩＥ．Ｍ	クライアントメニュー・セットアップファイル
ＳＸＶＳＴＵＰ．Ｍ	セットアップメニュー・セットアップファイル

② 環境設定ファイル

ホームディレクトリ／．ｘｓｅｓｓｉｏｎ
ホームディレクトリ／．Ｘｄｅｆａｕｌｔｓ

この２つのファイルに次の設定を追加する必要がある。

.xsession

```
XENVIRONMENT=$HOME/.Xdefaults
export XENVIRONMENT
```

.Xdefaults

```
*Backgound:#E800E800E800
4Dwm*sxvsub*clientDecoration:none
4Dwm*sxview*clientDecoration:none
```

1-1. 環境設定コマンドの実行

ＧＷＳを利用する上での必須ファイルのコピーと内容追加が必要なファイル設定をおこなうコマンドの実行方法を次に示す。

① cconyx01 にログイン

② GWS用ディレクトリの作成　　※アンダーラインは入力を示す

```
cconyx01% mkdir GWS      .....  ディレクトリGWSを作成する。（この名前は何でも良い）
cconyx01% cd GWS         .....  チェンジディレクトリをおこなう。以降の操作はこのディレクトリ上
                                でおこなう。
```

③ 環境設定ファイルのコピーコマンド実行

```
cconyx01% /usr/local/bin/setgws
```

【参考】
必須ファイルは、/usr1/guest/sxview/GWS　下にある。また、.xsession,.Xdefaults　は
/usr1/guest/sxview/GWS-kankyou 下にある。

1-2. ＳＸＶＳＹＳ（システム既定値ファイル）の修正、及び確認

上でコピーしたＳＸＶＳＹＳファイルの内容を利用者の環境に合わせて修正をおこなう。

```
Error Message File :/sxview/sys/SXVERR.DAT ..... ①
Error OutpuFile    :errlog                 ..... ②
Kanji File         :/sxview/sys/SXVKNJ.DAT ..... ③
IMF Directory      :./imf                  ..... ④
  ......
  ......
```

① SXviewで提供するｴﾗｰﾒｯｾｰｼﾞﾌｧｲﾙのﾊﾟｽ名(固定)

② SXviewから出力するｴﾗｰﾒｯｾｰｼﾞを出力するﾌｧｲﾙﾊﾟｽを指定する。
"NULL"を指定すると標準出力(装置6番)される。(利用者任意)上記ではﾊﾟｽが設定されていないので、ｶﾚﾝﾄﾃﾞｨﾚｸﾄﾘに"errlog"と言うﾌｧｲﾙ名でｴﾗｰﾒｯｾｰｼﾞがSXviewより出力される。

③ SXview/IMGを用いてﾃｷｽﾄ/漢字を描画する場合の漢字ﾌｧｲﾙのﾊﾟｽを指定する。(固定)

④ IMFﾌｧｲﾙを格納するﾃﾞｨﾚｸﾄﾘのﾊﾟｽ名を指定する。(利用者任意)　この例ではｶﾚﾝﾄﾃﾞｨﾚｸﾄﾘGWS下のimfﾃﾞｨﾚｸﾄﾘとなっている。
※IMFﾌｧｲﾙとはSXviewﾗｲﾌﾞﾗﾘによって作成された図形ｲﾒｰｼﾞﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙである。

1-3. ＳＸＶＳＹＳ．ＬＯＡＤ（ファイルローダ・セットアップファイル）の修正、及び確認

利用者のカレントディレクトリにコピーしたＳＸＶＳＹＳ．ＬＯＡＤファイルの内容を利用者の環境に合わせて修正する。

```
Error Message File :/sxview/sys/SXVERR.DAT ..... ①
Error OutpuFile    :loader.err             ..... ②
```

① SXviewで提供するｴﾗｰﾒｯｾｰｼﾞﾌｧｲﾙのﾊﾟｽ名(固定)

② SXview(sxvloader)から出力するｴﾗｰﾒｯｾｰｼﾞを出力するﾌｧｲﾙﾊﾟｽを指定する。
"NULL"を指定すると標準出力(装置6番)される。(利用者任意)
上記ではﾊﾟｽが設定されていないので、ｶﾚﾝﾄﾃﾞｨﾚｸﾄﾘに"loader.err"と言うﾌｧｲﾙ名でｴﾗｰﾒｯｾｰｼﾞがSXviewより出力される。

1-4. 以上で環境設定は終了したので、一旦cconyx01からログアウトをおこない再度ログインをやりなおす。

2．GWSの起動

環境設定でコピーしたＳＸＶＩＥＷ（起動用シェル）の実行をおこなう。

```
cconyx01% cd GWS
cconyx01% SXVIEW        ..... 必ず大文字で入力
```

これにより次図のようなGWSウインドウが表示される。

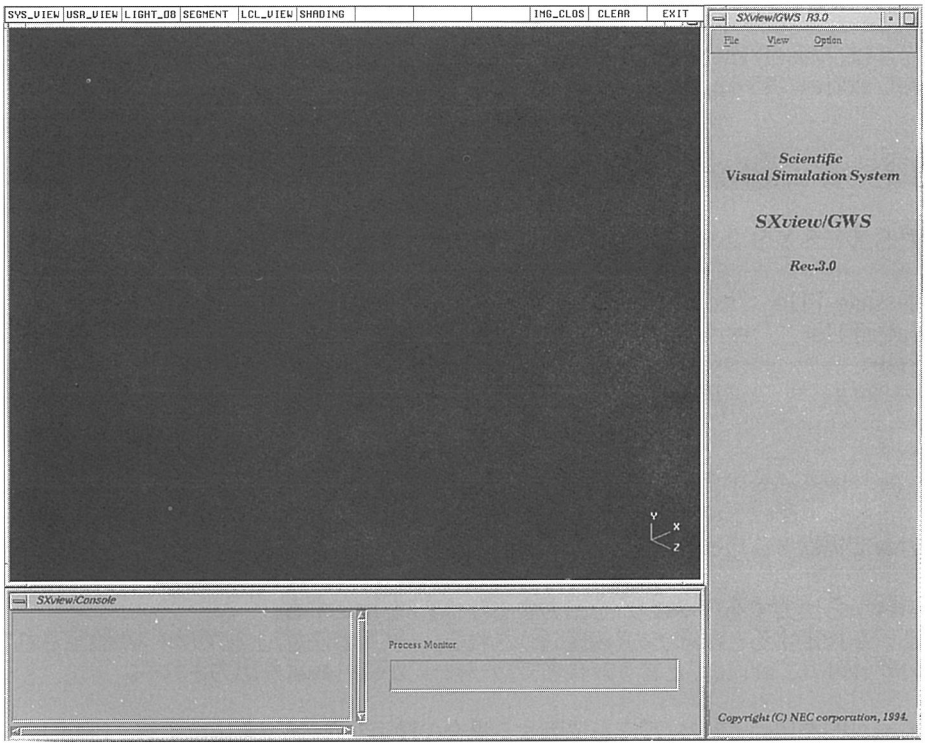


図1．GWSウインドウ

このGWSウインドウはつぎのような画面構成からなる。

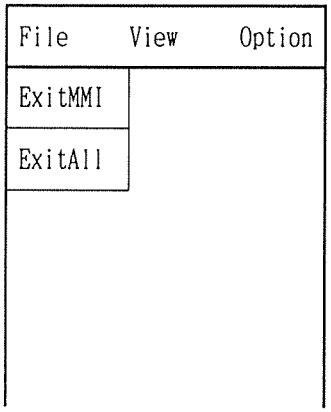
グラフィックサーバ・ファンクションキーメニュー	機能選択メニューバー
グラフィックサーバ・ウインドウ	機能メニュー表示領域
システムコンソール	サブメニュー表示領域

3．機能選択

機能選択メニューバーの、 File View Option のいづれかにマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示される。

3-1. 機能選択メニュー"File"

GWSの終了メニューとなる。



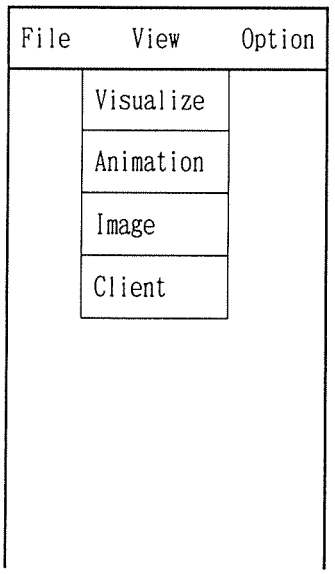
ＥｘｉｔＭＭＩ　：　対話処理システムの終了
マウスクリックされると、Ｏｎｙｘ側対話処理が終了する。

ＥｘｉｔＡｌｌ　：　対話処理システムの終了（全プロセス）
マウスクリックされると、Ｏｎｙｘ側対話処理とＳＸ－３側のファイルローダ、作図モジュールの終了処理がおこなわれる。

Ｏｎｙｘ単体で利用している場合は、どちらの終了方法を指定してもかまわない。

3-2. 機能選択メニュー"View"

Ｖｉｅｗでは作図を行う。ここをマウスクリックすると下図のイメージで作図メニューが表示される。



Ｖｉｓｕａｌｉｚｅ　：　ＳＸｖｉｅｗ形式のデータファイルをＶｉｓｕａｌｉｚｅのサブメニューで選択した表示方法で図形を描画する。

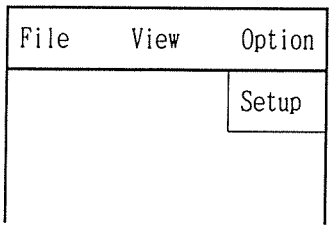
Ａｎｉｍａｔｉｏｎ　：　Ｖｉｓｕａｌｉｚｅでシステムに取り込まれた図形データを利用してアニメーション機能の設定、実行をする。

Ｉｍａｇｅ　：　ＳＸｖｉｅｗライブラリ（Ｆｏｒｔｒａｎサブルーチン）を使用して作成したイメージファイルを表示する。

Ｃｌｉｅｎｔ　：　ＳＸｖｉｅｗライブラリを使用した図形描画プログラムを実行する。

3-3. 機能選択メニュー"Option"

Ｏｐｔｉｏｎでは、ＳＸｖｉｅｗ対話処理でのカスタマイズが行える。ここをマウスクリックすると下図のイメージでメニューが表示される。



Ｓｅｔｕｐ　：　マウスクリックされると、セットアップメニューが表示される。

詳細は、「ＳＸｖｉｅｗ／ＧＷＳ　利用の手引き GUY31-3
「５．１３　セットアップメニュー」を参照。

4．作図

機能選択メニュー"View"で、Visualize, Animation, Image, Clientのいづれかを選択する。
つぎに、これらの操作方法についてサンプルデータを示しながら説明をおこなう。

4-1. Ｖｉｓｕａｌｉｚｅ
4-2. Ａｎｉｍａｔｉｏｎ
4-3. Ｉｍａｇｅ
4-4. Ｃｌｉｅｎｔ

4-1. Ｖｉｓｕａｌｉｚｅ

本機能はＳＸｖｉｅｗ形式[参考1]、ＭＯＶＩＥ－ＢＹＵ形式[参考2]の解析データファイルを読み込み、指定した描画方法で図形を表示する。本機能で描画された図形はローカル操作[参考3]が行える。
描画方法には以下のものがある。

Ｃｏｎｔｏｕｒ	：	等値線図
Ｉｓｏｓａｒｆａｃｅ	：	等値面図
Ｖｅｃｔｏｒ	：	ベクトル図
ＳｔｒｅａｍＬｉｎｅ	：	流線図
ＰａｒｔｉｃｌｅＡｄｖｅｃｔｉｏｎ	：	粒子追跡図
ＦｌｏｗＲｉｂｂｏｎ	：	リボン図
ＶｏｌｕｍｅＲｅｎｄｅｒｉｎｇ	：	ヴォリュームレンダリング[参考4]

【参考１】ＳＸｖｉｅｗ形式
ＳＸｖｉｅｗサブルーチン（ＳＦＷ＊＊＊）をＦｏｒｔｒａｎプログラムより利用することで作成されるＳＸｖｉｅｗ標準形式の解析データファイル。
サブルーチンに関してはマニュアルを参照。

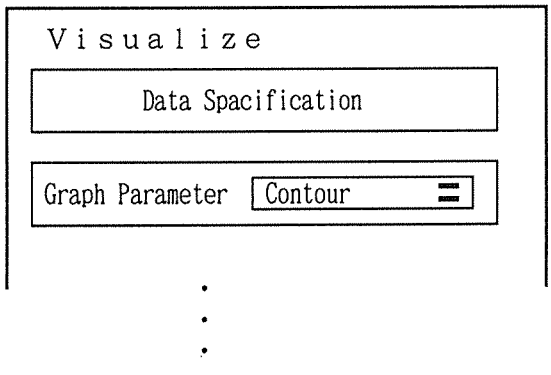
【参考２】ＭＯＶＩＥ－ＢＹＵ形式
Ｂｒｉｇｈａｍ Ｙｏｕｎｇ Ｕｎｉｖｅｒｓｉｔｙで開発されたファイル形式。
利用者がＭＯＶＩＥ－ＢＹＵ形式の解析データファイルを作成した場合、対話処理で直接読み込むことが可能。

【参考３】ローカル操作
ローカル操作とはウィンドウ上に描画された図形に対して拡大、縮小、視点位置、光源、位置などをマウス操作により変更できる。

【参考４】ボリュームレンダリング
これはＳＸ－３とのクライアントサーバ型でしか描画が行われない。（Ｏｎｙｘ単体での利用では選択出来ない。）

4-1-1. 描画手順

ＳＸｖｉｅｗ形式のサンプルデータ(/sxview/data/sample.*)を使用して等値面図の表示手順を簡単に紹介する。Ｖｉｓｕａｌｉｚｅ選択時は次ぎのメニューとなる。

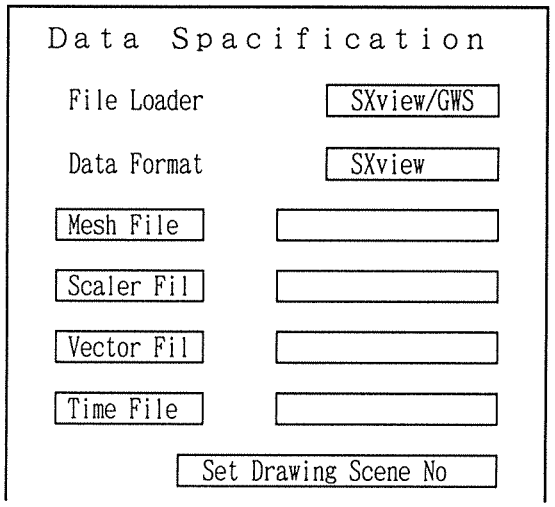


Data Specification
データ選択およびホスト選択メニュー

Graph Parameter
Contour, Isosurface, ... VolumeRendering
の切り替えメニュー

(1) 解析データの読み込み (Data Specification)

Data Specification をクリックすると次のデータ選択メニューとなる。



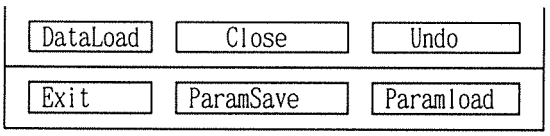
① File Loader は変更の必要はない。

② Data Format は変更の必要はない。

③ Mesh File,...,Time Fileではつぎのサンプルデータファイルを指定する。

Mesh File	/sxview/data/sample.msh
Scaler File	/sxview/data/sample.dat
Vector File	/sxview/data/sample.dat
Time File	/sxview/data/sample.tim

④ Set Drawing Scenen No はここでは何も指定しない。

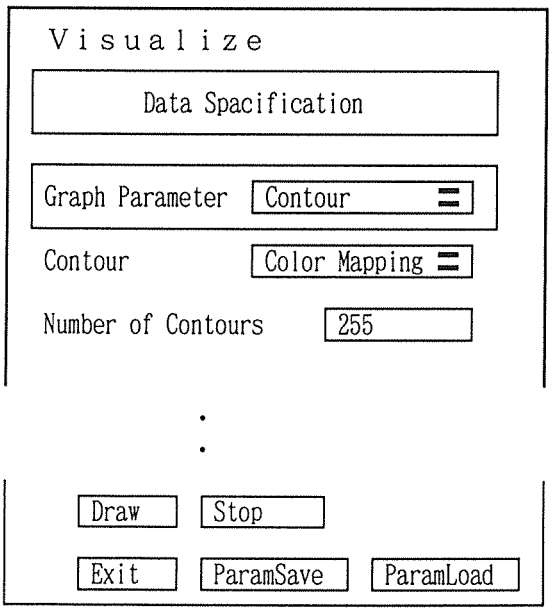


⑤ DataLoad をクリックしデータのロードをおこなう
サブメニュー表示領域でDone表示を確認。

⑥ Close をクリックし、Data Specificationを
終了させる。これで、前画面に戻る。

【参考】
一度読み込んだ解析データは、他の描画方法（等値線図、ベクトル図、リボン図等）にも利用できるので描画方法を変更するたびに解析データを読み込ませる必要はない。

(2) 描画方法の指定と描画



① Graph Parameter 右横のボックス内にカーソルを移動しクリックするとつぎのメニューとなる。

Graph Parameter	Contour
	Isosurface
	Vector
	Streamline
	ParticleAdvection
	FlowrRibbon

② ここでは Isosurface を選択する

③ Draw をクリックすると次図が描画される

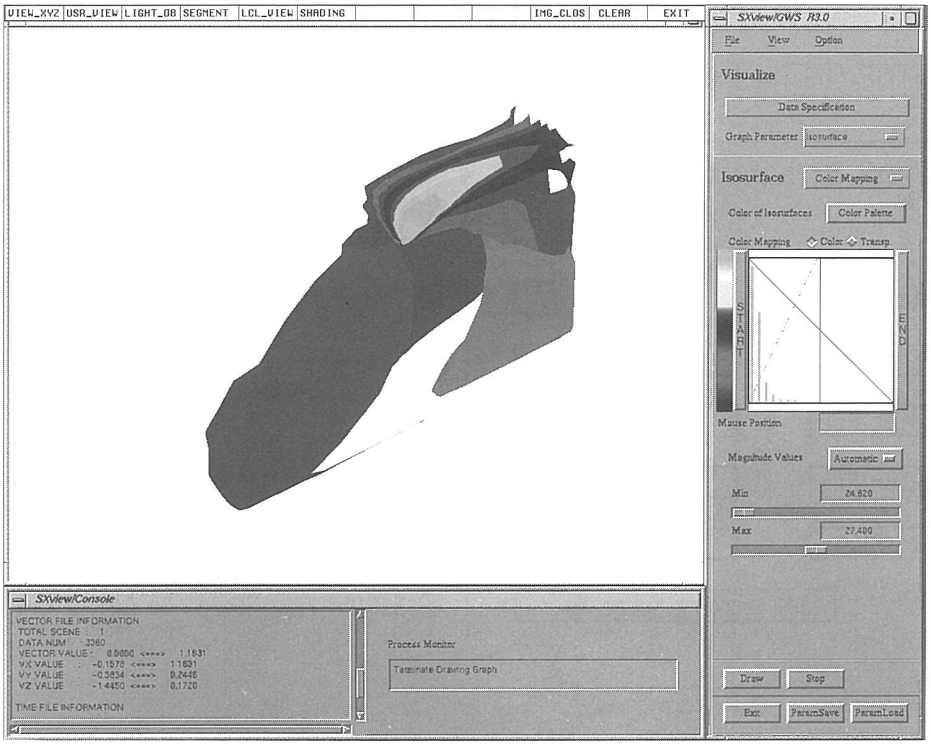


図2．Ｉｓｏｓｕｒｆａｃｅのサンプル表示

このサンプル図は、天井に吹き出し口のある室内空調装置から、送風した場合の室内への広がり具合を解析したものである。

【参考】
描画した図の消去方法は以下の手順である。

1. ファンクションキーメニューの [SEGMENT] をクリック

SEGMENT	
SURF00	1020 DELETE
guide axis	

2. [SURF00 1020 DELETE] をクリック

SEGMENT		
SURF00	1020 DELETE	DELETE
guide axis		SURF
box cursor		WIRE

3. [DELETE] をクリック

【参考】
Isosurface以外で表示したい場合

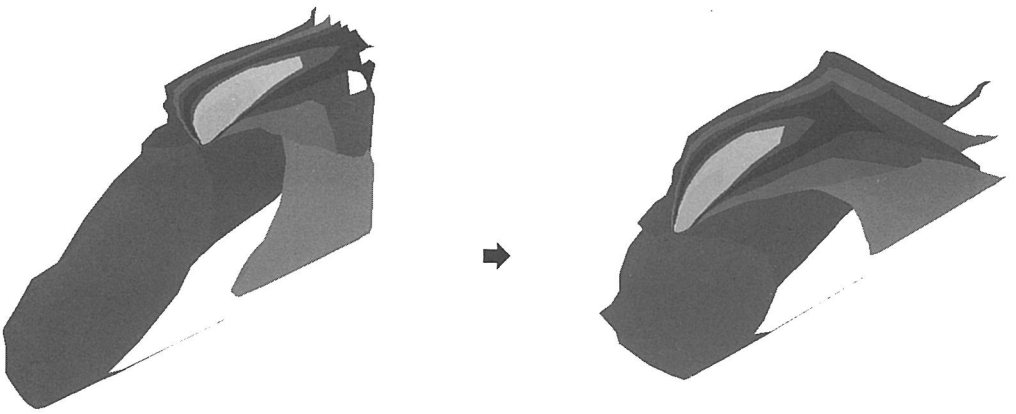
1. VisualizeのGraph parameterで他の描画方法を選択し [Draw] をクリック

(3) ローカル操作

ここで描画された図はローカル操作が行える。
ローカル操作は投影面座標系（ＶＲＣ）原点を中心として、物体を包み込むような透明な球面を想定し観測者はこの球面の上に乗って常にＶＲＣ原点を見ていると考える。

(3-1) 回転

Ｓｈｉｆｔキーとマウス左ボタンを同時に押しながらマウスを動かす。

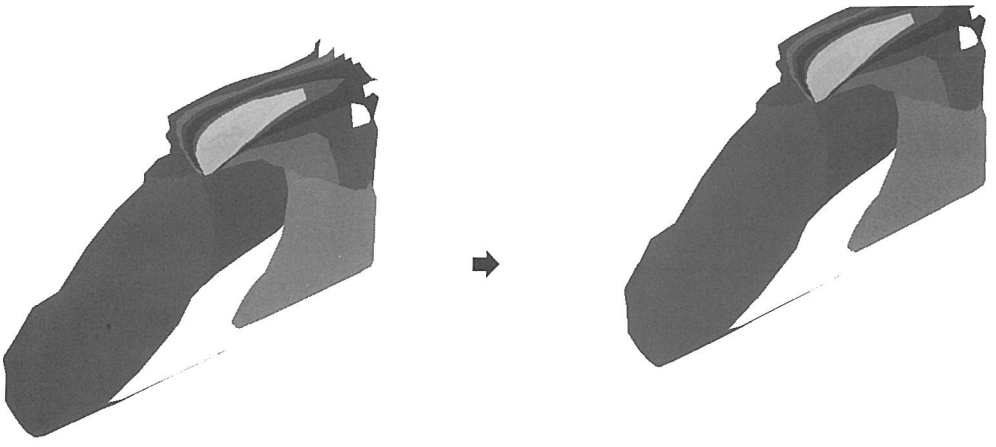


Ｓｈｉｆｔ ＋

※マウスを左から右へ動かすと視線が物体の右側に回り込む。下から上に動かすと物体の上側に回り込む。

(3-2) 移動

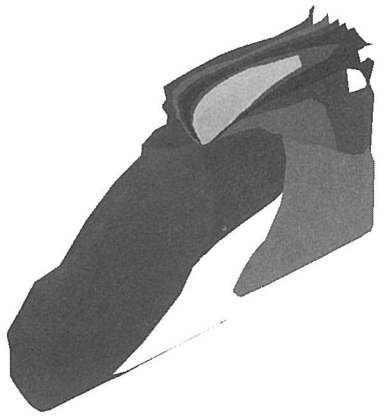
Ｓｈｉｆｔキーとマウス中央ボタンを同時に押しながらマウスを動かすことにより、視線方向を保ったままＶＲＣ原点が移動する。



Ｓｈｉｆｔ ＋

(3-3) ズームイン,ズームアウト

Ｓｈｉｆｔキーとマウスの右ボタンを同時に押しながらマウスを動かすことにより物体の拡大、縮小を行う。



Ｓｈｉｆｔ ＋

※　拡大：マウスを上または右へ動かす　　縮小：マウスを左または下へ動かす

4-2. Ａｎｉｍａｔｉｏｎ

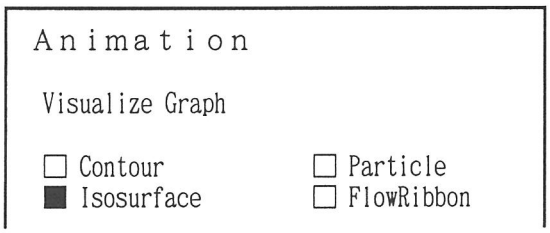
本機能はＶｉｓｕａｌｉｚｅでシステムに取り込まれた解析データを用いてアニメーションを行う。

4-2-1. 操作手順

ここでは、4-1 でシステムに取り込まれた解析データを用い等値面図を表示しアニメーション機能を簡単に紹介する。

①　機能選択メニューの [View] で [Animation] を選択すると次のアニメーションメニューとなる。

(1) 描画方法の指定（Ｖｉｚｕａｌｉｚｅ　Ｇｒａｐｈ）



①　ここでは [Isosurface] をクリック

【参考】

・描画方法の指定で、等値線図、等値面図、ベクトル図、流線図は同時選択（描画）が可能。

・等値線図、等値面図、ベクトル図、流線図のどれかが１つでも選択されると粒子追跡図、リボン図、ボリュームレンダリング図は選択不可となる。

・粒子追跡図、リボン図、ボリュームレンダリング図は他の描画方法と同時選択（描画）が出来ない。これらの描画方法が選択されると選択した描画方法以外は選択出来ない。

(2) カメラワークの設定

以下の例では次のような条件でカメラワークを設定することにする。

・総フレーム数は３６フレームとする。
・１～１５フレームまで下記条件でカメラワークを設定する。
　平行移動　：　縦、横への平行移動なし
　回転　：　Ｚ座標を軸とし回転
　ズーム　：　ズームイン、ズームアウトは行わない。
・１６～３６フレームまで下記条件でカメラワークを設定する。
　平行移動　：　縦、横への平行移動なし
　回転　：　Ｙ座標を軸とし回転
　ズーム　：　ズームアウト

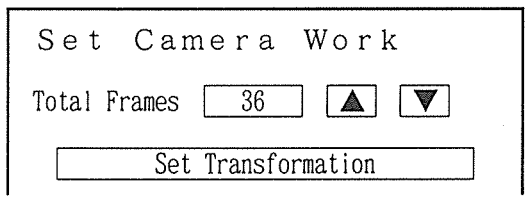
また、カメラワーク変位量は次のように設定することにする。

平行移動(Move)	：	Ｘ方向平行移動量	：０	
		Ｙ方向平行移動量	：０	
回転　(Rotate)	：	Ｘ軸回転量	：０	※
		Ｙ軸回転量	：－６	
		Ｚ軸回転量	：９	
ズーム　(Zoom)	：	ズーム量	：５	

※　回転の変位量は、３の倍数でなければならない。

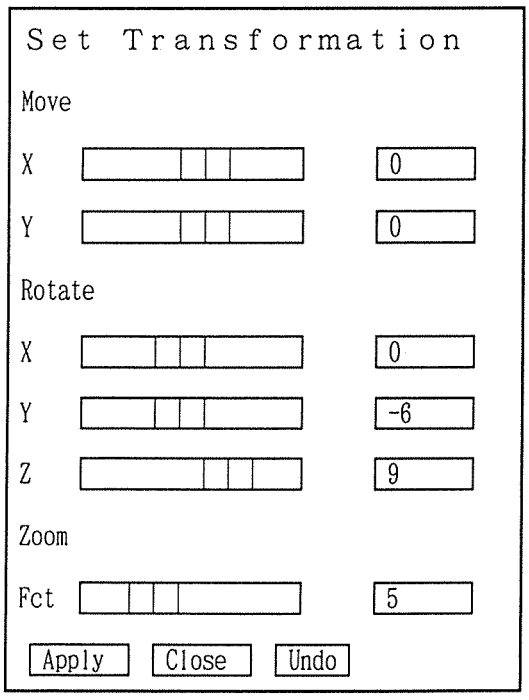
① "Animation Control"の [Camera WorkAnimation] をクリックするとカメラワーク設定メニューとなる。

カメラワーク設定メニュー



① カメラワーク変位量を設定するために
[Set Transformation] をクリックする。

カメラワーク変位量設定メニュー



Move はX、Yとも"０"指定。

Rotateは以下のように指定。
① Ｙ軸の変位量
　[　] 上でマウスをドラッグし"－６"にする。

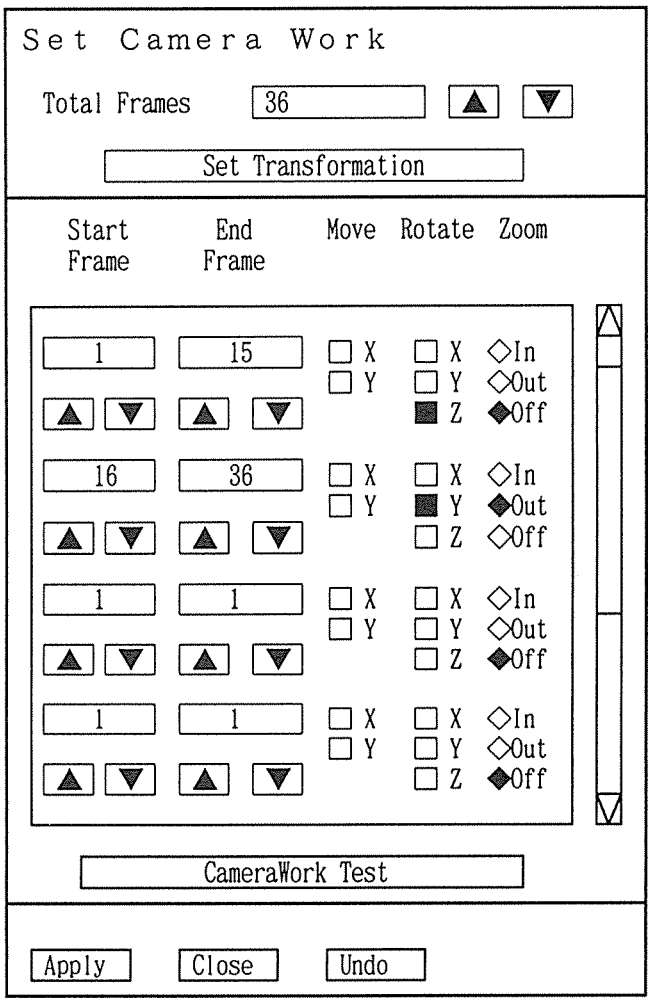
② Ｚ軸の変位量とズーム変位量
　同じように [　] をドラッグし"９"にする。

③ Zoom を"５"にする。

③ [Apply] をクリック

④ [Close] をクリックし
Set Transmationの終了をおこない
カメラワーク設定メニューに戻す。

カメラワーク設定メニュー



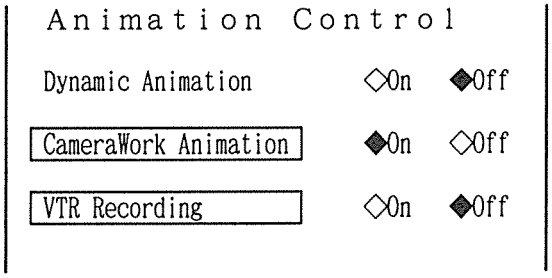
① 1～15フレームは平行方向の移動は無しとするのでMoveでX,Yにはマークしない。
Z座標で回転させるのでRotateではZをマークズームはしないのでZoomはOFFとする。

② 16～36フレームはY座標で回転しズームアウトする。

③ 設定が終了すれば Apply をクリックし更新する。

④ Close をクリック

(3) Animation Controlの設定
アニメーションメニュー上の "Animation Control" をつぎのように設定する。



① Dynamic Animation
描画方法で粒子追跡図またはリボン図を指定していない場合は、Offとする。

② CameraWork Animation
Onにする。

③ VTR Recording
ここではOffとする。

(4) 描画の開始

Draw をクリックすることによりアニメーションの描画が開始される。

4-3. Ｉｍａｇｅ

本機能はＳＸｖｉｅｗライブラリによって作成された図形のイメージデータファイルを描画するものである。

表示できるイメージファイルには以下のものがある。

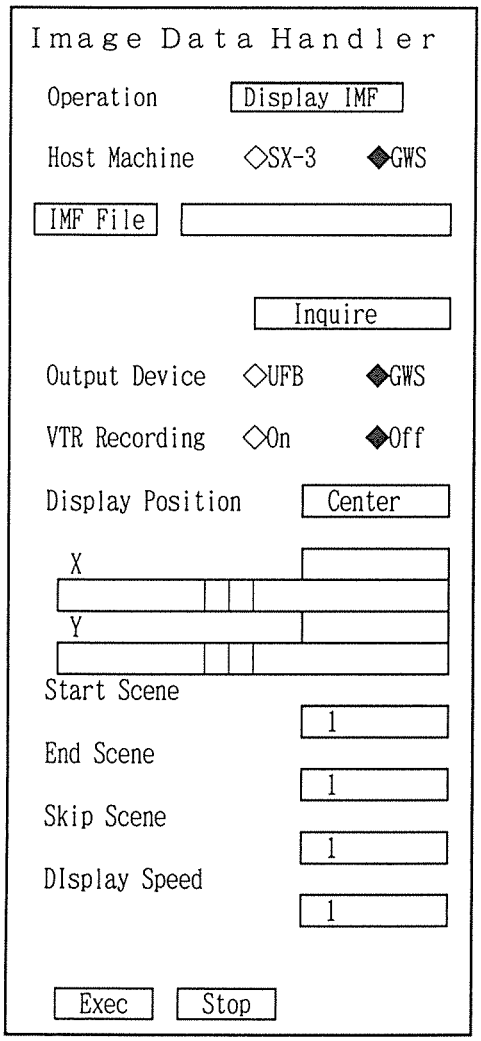
ＩＭＦファイル	：	フレームサイズが同じ複数シーンの画像を保存したファイル。 ファイル名は"～．ｉｍｆ＊＊"という形式で、"～"は任意の文字列であり、"．ｉｍｆ＊＊"はＩＭＦファイルを示す拡張子である。拡張子の"＊＊"は００～１５の１６通りの２ケタの数字である。
ＩＳＶファイル	：	単シーンのみの画像を保存したファイル。 ファイル名は"～．ｉｓｖ"という形式で、"～"は任意の文字列であり、"．ｉｓｖ"はＩＳＶファイルを示す拡張子である。

4-3-1. 描画手順

サンプルのイメージファイル(/sxview/imf/sample.imf00)を使用して描画方法を簡単に紹介する。

① 機能選択メニュー [View] で、 [Image] を選択。

ＩＭＦ表示メニュー



① Operation
Operation枠をクリックすると機能切り替えのプルダウンメニューとなる。

Display IMF	：	IMFファイルの表示
Display ISV	：	ISVファイルの表示
Archive ISV	：	ISVファイルへの保存
Trans ISV→IMF	：	ISVからIMFへの変換

ここでは、 [Display IMF] をクリック

② Host Machine では、GWSをクリック

③ IMF Fileでは [/sxview/imf/sample.imf00] とする

④ Output Deviceでは、表示装置はOnyxのモニターであるためGWSをクリック

⑤ Display Positionでは表示位置が指定出来る。
ここではCenterとする。

⑥ Start Scene, End Scene, Skip Scene はIMFファイルが複数シーンある場合に有効であるが、このサンプルでは１シーンしかないので全て１とする。

⑦ Display Speedについても表示する速度の指定がおこなえるが、このサンプルでは意味が無いので１とする。

⑧ [Exec] をクリックすると別ウインドウに描画される。

② イメージファイル表示ウインドウの消去
表示されたウインドウを消去するにはファンクションキーメニューの [IMG_CLOS] をクリックする。

4-4. Ｃｌｉｅｎｔ

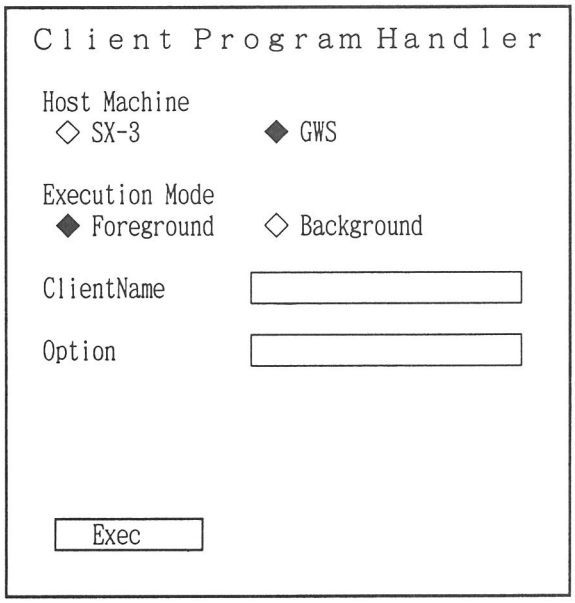
本機能はＳＸｖｉｅｗライブラリを使用した図形描画プログラムを実行するものである。

4-4-1. 描画手順

ＳＸｖｉｅｗライブラリを使用した描画サンプルプログラム(/sxview/example配下の実行ﾓｼﾞｭｰﾙ)の実行方法を簡単に説明する。

① 機能選択メニュー [View] で [Client] を選択する。

クライアントプログラム操作メニュー



① Host Machine には実行モジュールが格納されているマシンを指定する。ここでは"ＧＷＳ"を指定する。

② Execution Mode ではプログラムをフォアグランドまたはバックグランドのいづれかで実行するかを指定。このサンプルでは"foreground"を指定。

③ Client Name では実行するプログラムのファイルパス名を指定。ここでは [/sxview/example/streakline] とする。

④ Option ではキーボード入力によるプログラムの起動オプションを指定。ここでは必要無い。

⑤ [Exec] をクリックすると描画が開始される。

① 画面消去
描画が終了するとこのプログラムでは、グラフィックサーバ・ウインドウ内でリターンキーを入力することにより画面消去される。

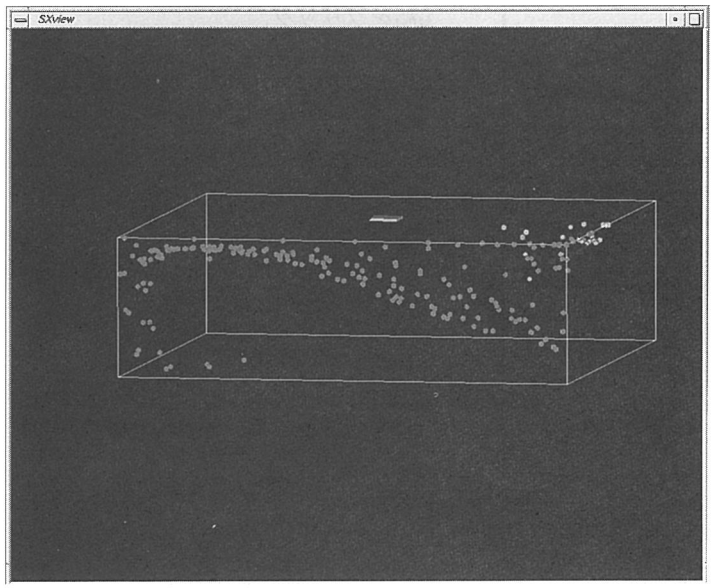
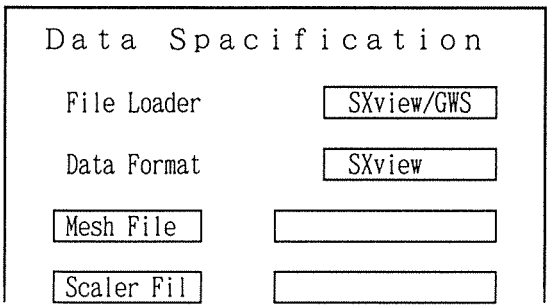


図3. Ｃｌｉｅｎｔのサンプル表示

【参考】
/sxview/example 配下にはここで実行した"streakline"の他にもいくつかのサンプルがある。拡張子になにも付いていないファイルがそれである。例えば、ribbon, vector等。

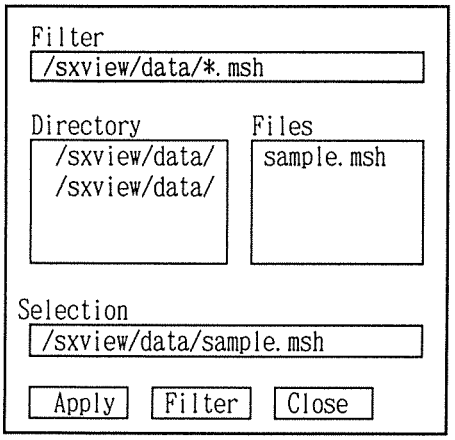
5. ファイルブラウザ

ファイルブラウザは各メニューのファイル名入力や環境設定ファイル名の入力をおこなう場合、起動することが出来る。
例えば、4-1."Ｖｉｓｕａｌｉｚｅ"の"Ｄａｔａ Ｓｐｅｃｉｆｉｃａｔｉｏｎ"で、ファイル名入力をファイルブラウザによっておこなう場合を以下に示す。



① Mesh File 内でクリックする。

ファイルブラウザメニュー



① Filter ではキーボード入力により指定する。
フィルタはディレクトリと拡張子の指定を行う為のものである

② Directories では一覧の中のディレクトリをクリックすることによりフィルタで指定するディレクトリを選択する

③ Files では一覧の中のファイルをクリックすることによりセレクションで指定するファイルを選択する

④ Selection では現在指定されているパス名を表示する。

⑤ Apply をクリックするとセレクションに表示されているパス名が確定する。

⑥ Filter をクリックするとファイル選択用のフィルタが確定される

⑦ Close をクリックするとファイルブラウザの終了

② 同じように Scaler fil 内をクリックすればファイルブラウザが使用出来る。

6. ファイル形式変換

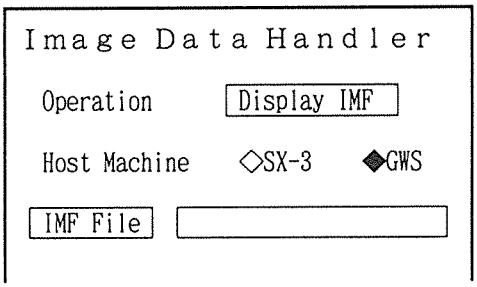
GWSで作成した画像データはＩＳＶ形式またはＩMF形式となる。これを他の形式例えばＴＩＦＦ形式やＳＧＩ形式に変換したいという要望があるものと思う。しかし今のところGWS上の画面操作による直接変換機能は無いが、ＩＳＶ形式またはＩMF形式からＴＩＦＦ形式またはＳＧＩ形式に変換するためのコマンドが用意されているので、ここでは変換の操作手順について説明を行う。

6-1. ＩＳＶ形式、ＩMF形式ファイルへの保存

"4-3. Image"で簡単に説明したように、ＩＳＶ形式は単シーンのみの画像ファイルでありＩMF形式ファイルは複数シーンの画像ファイルである。
ここの例では4-1.で説明した単シーンの画像をＩＳＶ形式で保存する操作について説明をする。

(1) "4-1. Visualize" の画像が描画されている時点で、機能選択メニューの [View] で [Image] を選択。

ＩMF表示メニュー



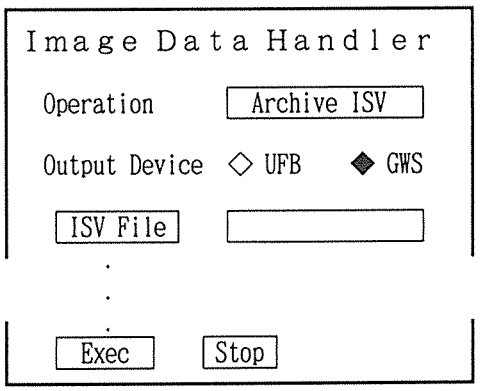
① 機能切り替え
Operation枠をクリックすると機能切り替えのプルダウンメニューとなる。

Display IMF	:	IMFファイルの表示
Display ISV	:	ISVファイルの表示
Archive ISV	:	ISVファイルへの保存
Trans ISV→IMF	:	ISVからIMFへの変換

ここでは、 [Archive ISV] をクリック

(2) これにより、次のＩＳＶ保存メニューとなる。

ＩＳＶ保存メニュー



① Output Device では
UFB(Ultra net Frame Buffer)とGWSのどちらの画面を保存するかを指定。ここではGWSとする。

② ISV File は任意のﾌｧｲﾙ名を指定。拡張子にはisvを付ける

例 [ISV File] [/usr1/a61234a/GWS/sample.isv]

③ [Exec] をクリックする。

【参考】
[ISV File] をクリックすればファイルブラウザによるファイル名入力が行える。

6-2. ｉｍｇｃｏｎｖコマンド

ＩＳＶ形式またはＩMF形式の画像ファイルをＳＧＩ形式またはＴＩＦＦ形式に変換を行うコマンドである。
このｉｍｇｃｏｎｖコマンドは、 ccews01 または ccsx3上で使用が可能である。

6-2-1. コマンド形式

(1) ISVﾌｧｲﾙの場合

imgconv ISVﾌｧｲﾙ名 [-f 出力先ﾌｧｲﾙ名] [-t tiff または -t sgi]

(2) IMFファイルの場合

imgconv IMFファイル名 [-f 出力先ファイル名] -s 開始シーン番号[終了シーン番号]] [-t tiff または -t sgi]

-f 出力ファイル名 ： このオプションを省略した場合はファイルの拡張子は以下のようになる。

SGIフォーマットに変換した場合 ： .rgb
TIFFフォーマットに変換した場合: .tif

-t tiff または -t sgi ： 変換後のファイル形式を指定。省略時はTIFF形式となる。

-s 開始シーン番号[終了シーン番号]
： 変換対象ファイルがIMF形式の場合に有効。
開始シーン番号から終了シーン番号までの画像データを変換対象とし変換後のファイル名には拡張子の前にシーン番号が付加される。また、終了シーン番号を表す記号として"$"が使用出来る。

本オプションを省略した場合や、終了シーン番号を省略した場合には第1シーンのみが変換される。

6-2-2. 使用例

コマンド	生成されるファイル名
・ccews01% imgconv sample.isv	sample.tif
・ccews01% imgconv sample.isv -t sgi	sample.rgb
・ccews01% imgconv sample.imf05	sample01.tif
・ccews01% imgconv sample.imf05 -f image -s 1 10	image01.tif - image10.tif

おわりに

GWS使用中に障害が発生した場合、マニュアル“ＳＸｖｉｅｗ／GWS利用の手引き”の第8章トラブルシューティングをご覧いただきたい。

本説明で紹介したサンプルファイルは全てcconyx01上に存在する。ＳＸｖｉｅｗライブラリを利用したプログラミングをおこなう場合は、cconyx01の "/sxview/example" ディレクトリ配下、および "/sxview/sample"ディレクトリ配下のサンプルプログラムを参考にしていただきたい。